



天文資料

2019年12月号

令和元年度 第9号 (12月号)

令和元年11月27日

発行：佐世保市少年科学館
佐世保市少年科学館

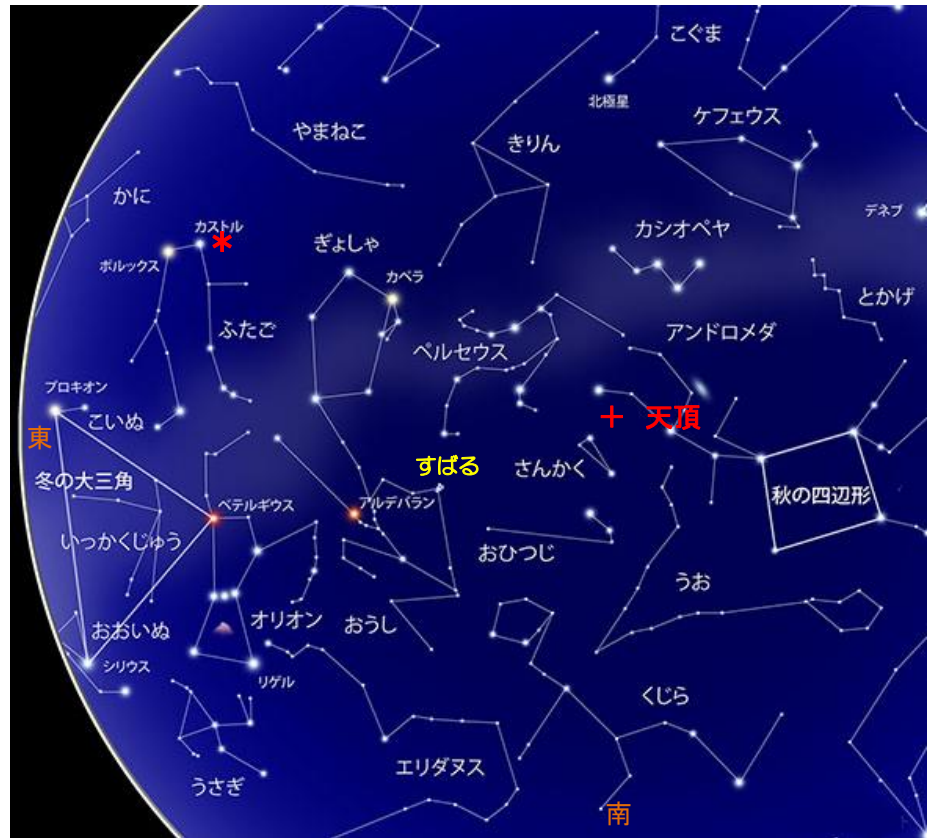


<師走を迎え、冬の星座が続々と登場してきました。>

令和元年も師走を迎えました。1年経つのは本当に早いものですね。

12月の星空は、冬の星座が続々と登場してきます。頭上にはカシオペア座・ペルセウス座・アンドロメダ座といった秋の星座がありますが、2等星が多いので、1等星の多い冬の星座には押され気味です。その冬の星座の先陣を切って昇ってくるのが、ぎょしゃ座とおうし座です。それぞれカペラとアルデバランという1等星がありますし、おうし座には有名な「すばる」もあります。その後方からは、ふたご座とオリオン座も昇ってきますから、東の空はあっという間に華やかになります。

寒さが厳しくなる時期です。防寒には十分な準備をして冬の夜空を楽しんでください。



国立天文台HPより

<2つの天文現象に注目を!>

○ふたご座流星群 (ピーク予想12月15日未明)

3大流星群のひとつで、ふたご座の2等星カストルの近く(*)から流星が飛び出すように見えます。条件がよければ1時間に20個くらいの流星を見ることができますが、今年は近くに明るい月があるので明るい流星しか見えないかもしれません。12月10日頃から活動が活発になってきますから、ぜひ注目してください。



○部分日食 (12月26日午後)

インドネシアで金環日食となる天文現象ですが、佐世保市でも太陽の一部を月が隠す部分日食として見るすることができます。予想時間は次のとおりです。



食の始まり：14時12分 食の最大：15時24分 食の終わり：16時28分

食の最大時

少年科学館では、日食めがね(有料)を作り観察する計画を立てています。詳細は科学館のHPをご覧ください。